

IoT 共通基盤技術の確立・実証

多様な IoT(Internet of Things)※サービスを創出するため、膨大な数の IoT 機器を迅速かつ効率的に接続する技術、異なる無線規格の IoT 機器や複数のサービスをまとめて効率的かつ安全にネットワークに接続・収容する技術等の共通基盤技術を確立し、国際標準化を推進する。

※ モノのインターネット。PCやスマートフォンに限らず、センサー、家電、車など様々なモノがインターネットで繋がること。

1 施策の概要

2020 年代には本格的な IoT 社会の到来により、500 億台の機器の接続や、現在の 1000 倍を超える通信量が予測されている。多様な IoT サービスを創出し、我が国経済の持続的発展に資するためには、膨大で多様な IoT 機器や多様なサービスの接続ニーズに対応可能なネットワークの構築が喫緊の課題となっている。また、ドイツのインダストリー4.0のように主要国では IoT の研究開発に産学官で取り組んでおり、国際競争が激化する中、本施策ではこうした課題解決を図るため、以下のような共通基盤技術を確立する。

- (1) 膨大な数の IoT 機器を迅速かつ効率的に接続する技術
- (2) データ形式や通信方式によらない統一的なユーザインターフェース技術
- (3) 異なる無線規格の IoT 機器や複数のサービスをまとめて効率的かつ安全に接続・収容する技術

併せて、多様な IoT サービス提供を目指すスマートシティ等の実現のため、産学官連携による推進体制の下、先進的な社会実証を総合的に実施し、欧米におけるスマートシティに係る実証プロジェクトと協調しつつ、国際標準化に向けた連携を強化する。

2 イメージ図

